



定価 一部金五銭 一月金五拾銭 三月金一圓二角 半年金二圓二角 一年金四圓二角
廣告料 五割 印刷費 五割
日曜 祭日の翌日 休刊
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

警備市制調査班

視察日誌(十)

3 二業地
二業地は一廓をなしてぬ

4 糞尿汲取
近所で汲み取つて呉れるので面倒な問題は起らない

5 下水道
未下だ水道の設備はない

6 隔離病舎
市營の隔離病舎があつて専屬の醫師が一名居る、年俸は千五百圓である。藥劑士は居らぬ、外に石山、膳所に隔離病舎があつてその近くの傳染病患者を收容してゐる。大津市は昭和八年四月、石山、膳所、大津の一市二町が解消合併して實現したのであるが、この二ヶ所の隔離病舎は合併前のものをその儘使用してゐるのである。現在の隔離病舎のまゝでは設備不十分なので昭和十年度の豫算に八萬九千二百九十一圓を計上して新築計畫中である。(参考書類第二十二號参照)

7 警 備
昭和十年度大日本消防協會から表彰された「但組」が農漁村合併に依る市制施行のため組織及機械器具等は農村消防の集團の感がある。同組は精神消防として

有名なもので、組頭以下物質を度外視し、献身的に努力してゐる点に特長があると聞く。豫算(昭十、經)七千二百三十二圓である。

午後五時頃大津發夕刻京都に歸つた。

◎第四日(土) 晴
十一日午前八時四十九分京都發、午前十一時三十五分一の宮驛着。

今日は土曜日の半ドンである。十二時に間に合ふ様

★0000000000
○明日の献立
◎0000000000

【朝】味噌汁・ねぎ
小付 梅干

【晝】煮浸し 干大根 油揚

【晚】チキンソテー
トマト マカロニチーズかけ

に自動車急がせて市役所を訪問した。庶務課長さんと浅井消防組頭(市参事會員)が應對して呉れた。

1 汚物掃除
初めは塵芥は埋立處分に附してゐたが、その後焼却場設置の必要を認めて昭和二年六月工事に着手した、同年十月竣工、總經費は三萬五千八百三十八圓であつた。爐を一日十時間使用するとして三千七百七十貫の焼却能力がある。塵芥運搬車の路面と焼却爐とは同じ高さなので塵芥をエレベーターで高く揚げねばならぬ不便があつたので、運搬車の路面が焼却爐の上に来る様に道路の工事中であつた常に強風通風器を使用したので、塵芥が灑落し過ぎて灰に肥料分が欠乏し、灰の買ひ手がなないのでたゞで呉れる(参考書類第二十三號第二十四號参照)

2 火葬場
火葬場は昭和五年に新設したものである。燃料は石炭を使つてゐるが、朝鮮無煙炭である上に高松式で煙が二度焼ける様な仕掛になつてゐるので、煙突から餘り煙りがあがらない、従つて火葬場附近の住民から苦情は出ない。火葬料金は、

大人	十圓	二五〇
小人	六圓	一五〇
産物	二圓	一〇〇

昭和十年度の火葬料の豫算は四千〇百二十圓である。

死者に對しては富める者貧しきとの區別なく丁寧懇切でなければならぬ意味から火葬場の入口に、骨上げの際には火夫に御心付は御断りと書いてある。火葬場に接して土間をコンクリートにした簡単な齋場があるがこゝでも大津と同じく利用者は少い相だ。(参考書類第二十五號参照)

星製藥株式會社

福島縣 宮城縣 子エーイン大會

附藥品及子エーイン學講習會

◎日時 昭和十年七月十四日(自午前九時 至午後四時)

◎場所 平町一丁目 聚樂館

今回は星社長外遊最初の大會でありまして本社の世界的躍進の狀況並に外遊に就いて星社長より親しく御報告申上げ、宮本博士よりは藥品に就いての講義があり何れも重要な會合でありますにつき奮つて御出席を願います

星製藥株式會社
任務斷行期成團

子エーイン同窓生 株式債權者 各位

主催

午後六時より 本所に於て

講 歐米視察談

星製藥株式會社

社長 星 一先生

師 家庭療法と學品學に就いて

理學博士 宮本貞一先生

「講演と映畫の夕べ」

陸軍省 御貸下トキー

映 海軍省 「台灣に於けるキナ事業」 「星社長の外遊」

畫 「星本社實寫」

主催 福島民報社

後授 星製藥株式會社

ホシチエーインストア 宮城支部長會

選挙の

公正を叫ぶ

平町で第一聲

丸山元警視總監が講演

石城地方選挙肅正の第一聲として縣では本月廿七日平第三小学校講堂に講演會開催を決定したが講師は元警視總監貴族院議員丸山鶴吉氏である

水戸神樂

津島神社餘興

平町五丁目の津島神社祭典は明十四日夜執行されるが餘興には水戸神樂一行十餘名の出演がある

九高大敷

久の濱も經營

小名濱町九高組大敷事務所は小名濱、茨城縣、平潟等に漁場を經營して居た處今

山田屋及傷

けふ言渡し

傍聴席にすゝり泣く

被告の妻

植田町東町山田屋別館仁義刃傷事件の第三回公判は今日十三日午前十時より中島裁判長係り香西、小林兩判事陪席、白水検事立會で開廷

(求刑八年) 山川倉藏同五年(求刑八年) 鈴木末松に同三年(求刑五年) 富岡乙三に二年(求刑二年)

の各判決を言渡しがあり嬰兒を抱いた被告の妻らしい婦人の嗚咽の聲が庭内に起り最後の劇的シーンの中に十時卅分閉廷した

重傷者が死亡

去る十二日田村郡小野新町附近七曲の急坂でサイドカーを轉覆重傷した江名町字北町三四久保田竹之助(三六)は其の後平町諸橋病院に於

借受けた他人の

低資を持ち逃げ

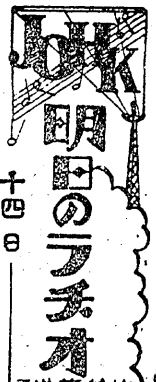
夫れを資金に履物屋 居所が判り逮捕さる

平町二丁目履物屋を經營して居た鈴木一郎(三三)は十一名の知人と連署で農工銀行平支店から低利資金を借入れ鈴木賢次外三名に渡すべし三百圓を横領行衛を晦して了つたが其後平署で各縣に手配中の處鈴木賢六と偽名して横領金を資本に岩手縣釜石町に履物商を營んで居る事探知され昨十二日釜石署に檢舉された

ガソリン車

既報來 停留場運動 年三月

を期して平町を中心に運轉を開始ガソリンカーの停留場は錦村字中田原地内昭和人絹及び磐崎村岩ヶ岡地内の二ヶ所が割込み結局久之濱錦間に十ヶ所の停留場を



明日の天気 今晩も明日も北東の風曇り

今晚の部

後六、〇〇 うたのお稽古 四家文子 後六、二五 教育者の體驗 談「家庭愛と罪の子」下河原只行「我儘な子供の嬌正」小松都雄 後七、三〇 漫談「恨めしいサーピス」西村樂天 後八、〇〇 狂言善意

明日の部

前八、〇〇 孟蘭盆會法要(増上寺中繼) 前九、三〇 神詣 高知市柳原鏡川畔山内神社中繼 前一〇、〇〇 日曜勸業 前一〇、四〇 講演「フランス國際日雜感」村川堅 前一、一〇 講演「出雲朝時代の文化について」千家尊有 前一、四〇 全國實業專門學校野球聯盟東北地方大會 後〇、五〇 滿洲より 演「滿洲通貨問題」南郷龍音 後二、三〇 ラヂオドラマ「大久保彦左衛門」中村梅玉一座 後六、〇〇 子供の時間 うたのおけいこ 四家文子 後七、三〇 講演「過去及將來に於ける臺灣の産業」中瀬拙夫 後八、〇〇 講演と詩吟 安達謙藏 熊本縣下中小學吟詠部員 後八、二五 追善レコード 常磐津林中の「乗合船」他九種 後八、五〇 日曜講談「高野長英」大島伯鶴

八坂神社祭禮

好問村大字上好間字内ノ草に鎮座する小社八坂神社の例祭は十四、十五の兩日執行餘興には煙火盆踊等がある

草野農事視察

草野村北神谷御代農事實行組合は來る十五日錦、泉兩村の優良實行組合を視察すると

大公望の大會

平町の大公望連で組織される丹後澤舟遊會では明十四日午前四時から丹後澤で魚釣大會を開催するが會費は金一圓で飛入り大歡迎

遊興費の説諭

好問村大字上好間字町田坑夫志村一郎(二七)は五月廿七日双葉郡富岡町の料理店押田百四郎方の遊興代十二圓餘を未だに支拂はぬとして本日平署に説諭願ひがあつた

無理な取調に

心にもない嘘 放火の覚えがないと

被害頑張る

西兩判事陪席清田検事立會で開廷された被告は依然として犯行の總べてを否認し警察では無理な取調に堪へず心にもない事を述べたと頑張る爲め取調に當つた富岡署森巡查部長を證人として呼出し被告の自白

女房逃出す

平町材木町三浦今朝吉の妻ウメ(三三)は本月十日夫が仙臺方面に旅行中に長女正子

平裁判たより

△勿來町大字四澤字古身一〇農吉田アサ(三六)は去る六月三日午前三時半頃朝飯の焚灰を木箱に入れて外出した残灰より發火せしめ母屋一棟を全焼し失火罪にて平區より略式二十圓に處された

平職業紹介所報告

△出前持 二十才 尋卒 月五一六圓
△牛乳配達 二十才前後 尋卒 月十圓
△粕 四十才 尋卒 給料面談
△女中 二十前後 尋卒 月五圓
△三助 五十五才 尋卒
△料理人 二十二才 高卒
△薪炭店員 二十才 高卒
△コック 二十七才 高卒

夫の留守に

既報來 停留場運動 年三月

